

戦争と平和の資料館

ピースあいちニュース

第10号
2011年11月1日発行

〒465-0091
愛知県名古屋市名東区
よもぎ台2丁目820
電話・FAX 052-602-4222



発行:戦争と平和の資料館ピースあいち <http://peace-aichi.com/> 【定価:30円】

「ピースあいち」が問いかける「現代の国際社会と新たな平和の実現」 特別展「現代の戦争と平和—21世紀を共に生きるために—」を開催中

—2011年9月27日～11月26日—

20世紀は戦争の100年でした。21世紀こそは平和の世紀にしたいと誰もが願いましたが、世界では未だに戦火が絶えません。日本では戦争が終わって66年余、平和の歳月が続きました。この平和を次代を担う子どもたちに手渡したい。このような願いから、いま、世界で起きている紛争に目をそむけることなく、何故戦争が起きるのか、私たちに何ができるのかを考えたいと思います。



【現代をどう見るか】

「暴力と戦争の世紀」ともよばれた20世紀。90年代は軍縮、民主主義、人権保障の分野で前進もありました。しかし、冷戦の終結と共に、大国の締めつけがはずれ、世界各地で民族、歴史、文化、宗教が新たな摩擦を生み始め、地域、民族紛争も激しさを増し、今も各地で多数の死者や難民が出ています。

また、冷戦後、世界政治におけるアメリカの影響が強くなって、一極集中といわれる状況が現れました。一方、今日世界各地で人々が政治、経済、軍事的支配からの自由と平和的生存権を求め、声をあげ始めています。

【子どもたちと平和】

日本の「3.11」東日本大震災、福島原発事故は、「世界が平和に生きる」とは何かという今までにない新しい問題を突きつけました。

世界各地で貧困、飢餓のため生活を破壊される子ども、爆撃にさらされる子ども、劣化ウランに苦しむ子ども、放射能におびえる日本の子どもなど、すべての子どもたちに平和な未来を築くため、私たちは現実を直視し、21世紀の課題を考えなければなりません。



【今回の特別展】

特別展では「現代の戦争、紛争」とは何かを、パレスチナ、イラク、アフガンから見つめます。つぎにその中に浮かび上がる「日本の課題」を憲法、安保、核を軸に取りあげ、平和の観点から対立を取り除くためには何ができるのか、提起します。最後に、21世紀を担う地球上の子どもたちが平和に生きるため何を求めているのか、また、地球市民の一人として私たちは何をすべきかを学び合いたいと思います。

【21世紀を共に生きるために】

平和とは単に「戦争をなくすこと」だけではありません。

3.11後の日本には、人間が動植物を含め自然と共に生きるという「新たな平和的生存権」を率先して世界に示す責任が求められています。

是非、ご覧ください。そして共に考えましょう。

●'11所蔵品展(12月8日～2月18日)

—未公開寄贈資料を中心として—

戦後66年経った今日も、世界各地で紛争が起こり、多くの人が殺され傷ついています。

日本でも、普天間問題に加え、ソマリアの隣ジブチに自衛隊基地が設営され、「PKOにおける武器使用の拡大」や「武器輸出解禁」の発言がなされています。この機会に戦争中の資料と向き合って、戦争と平和について考えたいと思います。

報告 夏休み特別企画展「戦時下の子どもたちの暮らし」

—7月12日(火)～8月31日(水)—

昭和6(1931)年の満州事変からはじまった戦争は、足かけ15年にわたりました。若者は戦場に送られ、国民は苛酷な生活を強いられました。子どもたちは軍国教育をうけ、戦争遂行に協力させられました。

そうした戦時の子どもの暮らしはどのようなものであったか。残さ

れた戦時遺品は、教科書をはじめ学用品、文房具、おもちゃ、子供服、学童疎開の記録、子どもの替え歌などがあります。こうした品々を展示し、最後に新聞の投稿欄に載った小学6年の男の子の「平和を願う」という文章で、この特別展の展示を締めくくりました。



●展示・イベントの報告

多彩に展開したイベントの数々

当館では、平和の尊さを訴え、その運動の輪を広げるために随時、展示会やイベントを計画し、開催しております。今年の初夏から夏いっぱいにかけて特別展も含め幾つかの展示・イベントを実施しました。

●「沖縄戦とひめゆり学徒隊」

5月17日(火)～6月25日(土)

ひめゆり学徒隊の戦争体験と平和への思いを次世代に伝えるために、ひめゆり平和祈念資料館が作成したパネル「沖縄戦とひめゆり学徒隊」を展示しました。太平洋戦争末期に日米の激しい地上戦となった沖縄戦で戦闘に巻き込まれ、犠牲になったひめゆり学徒たち。見学する同じ年頃の子どもたちは真剣な眼差しでした。



験者の手記や詩歌を朗読する会はこれで3年目。今年は原爆や名古屋空襲や俳優の米倉斉加年さんの絵本からなる台本を上演しました。出演者の一人の方は「戦争を知らない世代が読むことで、知識でしかなかった戦争を少しずつ自分に引き寄せて考え始めました」と言われました。



●「15歳の語り継ぐ戦争」展—金城学院中学3年生のとりくみ 7月23日(土)～8月31日(水)

広島への修学旅行や1年間の総合学習の中で「私の聞いた戦争」をひとり一人の生徒がまとめた壁新聞を展示しました。7月23日には、金城学院中学生と高校生による「祖母から聞いた戦争—いま、自分に出来ること—」金城学院中・高校生によるピアノ演奏とお話が行われました。ピースあいち開館の年から毎年続けている企画ですが、年を追うごとに次世代、次々世代の語り継ぎが大切であると感じます。



●アンネ・フランク パネル展

5月19日(木)～27日(金)

アンネフランク財団より提供されたパネル20枚(平和教育地球キャンペーン主催)を展示しました。1階に並べられた背丈ほどもある大型スタンドパネルは、見やすく印象的でした。



●沖縄慰霊の日企画 豊田研吾氏講演会

6月18日(土)

1945年6月23日は沖縄戦で日本軍の組織的な戦闘が終わった日。毎年この時期に沖縄を取り上げていますが、今年は「“集団自決”戦後64年の告白～沖縄・渡嘉敷島～ NHK作品の上映とディレクターの語り」と題し豊田研吾氏をお招きしました。番組ビデオを見た後、取材時のお話を聞き、参加者と質疑応答をしました。



●朗読劇「あの夏の空に届け」 7月9日(土)

南山国際中学・高校の演劇部員や母親が戦争体

●つつみあつき・クラリネット・コンサート〈ちいちゃん終戦〉 8月15日(月)

名東区在住のクラリネット奏者つつみあつきさんの協力のもと、終戦の日臨時開館して行われました。1部はつつみさんの母親の戦争体験を小瀬水素子さんが朗読し、2部3部は伊藤真理子さんのピアノ伴奏でクラリネットを堪能しました。終戦の日にあふさわしい午後のひと時でした。



開館4周年記念「ピースまつり」を開催

5月7日(土)・8日(日)

ピースまつりの初日は、森島理事長の挨拶の後、荻野克典さんのシャンソンコンサートからスタート。恒例のバザー、平和関連活動団体の紹介に人が溢れ、屋外のおもちゃ病院や産直野菜やフェアトレードのショップ



にも行き交う人たちが足を止めていました。地域の方の気軽な参加は、年ごとに広がってきているようです。午後から行われた、森英樹、青木みか、野間美喜子、斎藤孝さん4人による「ピーストーク」では、参加者はとても熱心に聞き入っていました。

二日目はセサル・ティコナさんのフォルクローレライブで幕を開け、午後には名古屋二期会アンサンブル研究会コンサートへと続きました。

今回もたくさんの皆様がピースまつりに協力して頂きました。バザーの収益やカンパ(安藤日出彦さんの肖像スケッチと名古屋をフェアトレードタウンにしよう会)等から集まった東日本大震災被災者義援金91,476円を、中日新聞社会事業団を通して被災各県へ送りました。ありがとうございました。



●総会の報告

博物館相当施設に認定される

—第19回総会が開かれる—

2011年6月18日、「ピースあいち」の1階ホールに於いて、第19回の通常総会を開いた。冒頭、野間美喜子館長は、大要次のように語った。①昨年の秋、愛知県教育委員会から、本館が「博物館相当施設」に認定された。これは、これからの活動にとってプラスになる。②「ピースあいち」の建設に当たり、加藤たづさんに「みなし譲渡所得税」が課税されることであったが、当館の公

共性が認められ、免税となる。③人権擁護や平和活動に送られる「アロイジオ賞」を受賞した。多くの方々によって「ピースあいち」は支えられている、として話を結んだ。

議事に入り、2010年度の事業報告のあと、決算・監査報告を承認、次いで2011年度の事業計画・予算を協議、承認された。このあと、森島昭夫理事長の取り回しで、戦時の思い出や昨今の世相などを語る懇談があり、なごやかなうちに総会を終えた。

●団体見学

2011年4月から2012年1月までの団体来館者

今年度の来館団体数は来年1月までの申し込みも含めて37になります。その中で小学校、中学校、高校からは14校合わせて約520名です。

9月には残暑厳しい中、不登校児が通う星槎学園名古屋キャンパスから、小中学生5人の子どもたちが来館しました。語り手の小笠原さんは最初、どう対応したらいいのかと思案したそうですが、話し始めると飛行機と

か原爆に詳しい子がいて、すぐに質問が飛んできました。小笠原さんはベテランらしく、質問した子に分かりやすく答えながら、ご自分の疎開体験を語り、子どもたちはその話に興味深く耳を傾けていました。展示ガイドを担当した佐藤和夫さんも「素直ないい子たちでした。質問と答がキャッチボールのようになって、いいガイドができました」と報告してくれました。後日、感謝の言葉いっぱい葉書が届きました。文面から先生方と子どもたちが信頼しあっている様子がうかがえました。

戦争の記憶を語り伝える —2011年戦争体験を語る集い

ピースあいちでは、毎年夏に「戦争体験を語る集い」を開いています。今年は8月2日から13日の間、10人の語り手に登場していただき、総計308人の聴衆が集まりました。また、当日の司会及び報告執筆は当番のボランティア（報告執筆者）が担当しました。

奇跡的に無傷—広島での被爆

愛知県原水爆被災者の会副事務局長
鬼頭 駿

1945年8月6日、15歳のとき、転属先の爆心地から5kmの三菱重工広島工場で被爆しました。8時15分、目の眩む閃光が窓を被い、爆音大音響が続きましたが、鉄筋の建物の2階にいたので無傷でした。軍の命令で救援に向かいましたが、橋の落下等でたどり着けませんでした。途中ドーナツ型の火災が竜巻のように渦巻いている異様な光景や水を求める皮膚のたれ下った人々と出会いました。生きた心地がせず、目に浮かんで眠れませんでした。9月6日迄広島にいました。



若い人に平和運動に参加して欲しいと結ばれました。（杉江加代子）

台湾での生活と日本への引き揚げ

鶴添 繁

台湾で生まれ、小学6年生（終戦時）まで暮らした。

昭和19（1944）年10月12、13日の台湾沖航空戦で日本人のみに疎開指令が出た。山深い合掌づくりの学校へ。高砂族の案内でやっと登校、毒蛇が足下、木の上から飛び掛ってきて怖かった。



日本の航空機は全滅、敗戦。台東に戻ったとき、食事はあったが、日本には帰れないかもしれないと思い北京語を勉強。機関銃を持つ兵士による引き揚げ時の身体検査、金品の没収、若い可愛い女性は連れて行かれたなど、淡々と話されましたが、恐怖と緊張感のあるお話でした。（井戸早苗）

一番苦勞したのは女たちだ

元戦艦大和乗員
野村 義治
最初に、持参された海軍の帽子と「大和」の戦

死者名簿を紹介され、聴衆に回覧された。

当時の技術の粋を集めて建造され、海軍の憧れの的であった「大和」に乗船しレイテ沖海戦に参加した。「武蔵」は撃沈されたが、「大和」は呉に帰還した。私は呉で下船したので助かったと思っている。

母親は内心（戦争に）反対だったろうが、声に出せる時代ではなかった。男が決めて男が始めた戦争で、一番苦勞したのは女たちだ。

戦争はすべきではない。特に、女性にとって、絶対にすべきではない。（吉川守）



兄のサイパン玉砕と名古屋空襲

足立 美枝子

足立さんは、大正10（1921）年生まれの90歳で、現在中村区に在住。お兄様が、昭和13（1938）年当時の時代の要請もあり陸軍に志願し、各地を転戦、昭和19（1944）年サイパン島で玉砕されるという悲しい経験をされた。



ほぼ同じ頃、足立さん自身は中川区千音寺で名古屋空襲（第一次）に遭遇、乳飲み子を抱え、近所の家に焼夷弾が落ち焼けているのを目撃して怖い経験をされた。

この二つの経験から「人間は助け合い、戦争は絶対やってはいけない」ということを強調された。（亀山正樹）

生き埋めになった兄が助かる

森下 規矩夫

昭和12（1937）年生まれの森下さんは、名古屋市東区茶屋ヶ坂の三菱重工名古屋発動機製作所（現名古屋ドーム）の傍に住んでいました。昭和19（1944）年末以降度々空襲に見舞われま



した。当時工場で働いていたお兄さんは空襲で生き埋めとなり、助け出されて九死に一生を得ました。

超低空飛行をするB-29の機影が美しかったこと、疎開先の三重県鈴鹿で終戦を迎え、復員してきた兵士の安堵した表情が忘れられなかったこと、航空隊が放置していった戦闘機で遊んだことなどをイラストを交えながらお話して下さいました。(乳井公子)

海軍兵学校の生活

丹 辺 文 彦

かつて海軍兵学校にも在籍し、学徒動員で工場にも勤めた丹辺さん。戦前と戦後の転換点を見られたことが「幸運」という一方、食い物を奪われたことと学びを奪われたことに対する「うらみ」も戦後抱えて生きてきたそうです。現代と戦時中、当時の国力の比較を交えながら、商家の家族に生まれたことから海軍兵学校を目指した経緯や「生きて虜囚の辱めをうけず」などを学んだりした海軍兵学校生活などを話して下さいました。(岡村裕成)



下に語られた。

田口さんはスペインの画家ピカソが「ゲルニカの空襲」の絵をパリ万博に出品し、空襲を告白した事を例に戦争の悲惨さや醜さについて語られた。



戦争は何故止められなかったか、被害だけを思わず加害の面ではどうなのかなどなど、多くの事を考える指針にしてほしいと話を結ばれた。(瀬戸暢子)

集団疎開と戦禍

乾 正 男

昭和8(1933)年、名古屋市中区で生まれ、小学6年生の時に伊勢宇治山田に集団疎開をしました。疎開の辛いことは、お腹がすいて、いっぱい食べたかったこと。疎開先のお百姓さんに頂いたトマト、キュウリがとても美味しかったことが記憶に残っております。



3月19日、卒業式のため、名古屋に帰ってきたその日の夜に空襲があり近くのビルの地下に逃げました。爆弾が落ちてくる時、ヒューと風を切る音がしてとても怖い思いをしました。

幼いときの恐ろしい体験から、戦争によっての、ひもじさ、悲惨さを話され、争いごとによる虚しいことが無いように伝えていくことが私の立場だと思います。(中西照美)

模擬爆弾を被弾

山 田 扶 美 代

今年81歳の山田扶美代さんは、17歳だった1945(昭和20)年4月26日朝、昭和区八事で、名古屋で最後に投下されたパンプキン爆弾によって右顔半分、血だらけの大怪我をされ、日赤病院で消毒手当を受けられ、数時間後あまりの痛さに、桜山の市大病院で受診、麻酔ナシで右眼球を切り取る手術を受け、あまりの激痛とショックで気絶。気がつくと看護師から自分の右眼球を見せられたそうです。手術直後の体で桜山から八事まで痛みをこらえて、歩いて帰宅。その後、左目も悪化し失明、絶望のうちに終戦を迎えた。(田中とみ子)



空襲・疎開・地震

小 島 鋼 平

昭和19(1944)年、国民学校6年生の時、幡豆郡横須賀村(現在の西尾市)へ学童疎開した。児童約100名に教師2人、寮母4人。疎開の荷物は1人20kg以内。午前中は授業、午後は農家への手伝い。学童疎開中の1944年12月7日午後1時頃、マグニチュード7.9の東南海地震、1945年1月13日午前3時頃マグニチュード7.1の三河地震が起きました。二つの地震で多数の死傷者、家屋の損壊があったが、政府は、そのことをありのまま報道すると人心が動揺し、戦意喪失につながるということから、厳重な報道規制を行いました。平和の大切さを語られた。(吉岡由紀夫)



熱田空襲を対談形式で

鶴 勲

学生時代に熱田空襲を体験された鶴添さんと大学講師の田口智洋さんとの対談形式で行われた。

鶴さんは飛行機製造など軍需工場のある地で受けた爆撃の様子をいまだにはっきりとした記憶の

「語り手の会」の活動拡がる 2011年度上半期・語り手の会の活動

本年度の活動は5月30日に開催した『ピースあいち語り手の会』第3回例会で始まりました。2010年度の活動を振り返りつつ、2011年度の活動計画を定めました。

(1) 平和学習支援事業

この事業も3年目に入りましたが、本年度は前年の12校に対し15校に増加しました。名古屋市内4校、愛知県内11校となっており、特に県内は尾張、西三河、東三河くまなく回る行程になっています。遠隔地は田原市立神戸小学校が予定されています。全体の計画では1300人余りの生徒たちが聞いてくれることになっています。

9月末現在で7校を終えることができました。このうち、みよし市では「戦争に関する資料館調査会」主催の「収蔵資料展」の会場で一般市民を対象にして戦争体験を語ってもらいました。

(2) 夏の戦争体験を語るシリーズ

本年は「語り手の会」を結成して以来、初めてという人が6人みえました。戦艦大和の隊員であった野村義治さんの話には関心が集まり、53人の方が聞き入りました。全体では308人(前年284人)の聴衆が集まりました。

(3) その他の語り活動

上記のほか東海地区の小中学校や各種団体からの要請に応じて語り手の会員が出番となる機会は9月末で13回を数えました。

10月11日には初めての語り不安を感じている語り手だけでなく、経験者も自分の体験をどう伝えるのか、何を訴えるのかなど語り手同士の交流を通じて自信を

深めていくことができるよう研修会を持ちました。次代の若者に二度と戦争を起こさせないよう、あの戦争の悲惨な事実を語り伝えることの重要性をあらためて確認しあいました。



【体験談を聞いた感想文】

●戦争は人を殺しあうのは知っていたが、多くの人の大切な命がなくなるなど思ってもいなかった。

これから自分の命も世界中の命も大切にしていきたい。Yさん(語り手)に教えられて命は本当に大切だということが分かった(小学6年 男子)。

●戦争のおそろしさを改めて感じました。私が大人になったら、戦争がもう二度と起こらないようにしたいです(小学6年、女子)。



●戦争はぜったいにしてはいけないと思います。今日聞いた話をもっといろんな人に話して知ってもらいたいと思います。外国の人ともっと仲よくしていきたいです(小学6年、女子)。

資料館探訪 4

展示に工夫 国際平和ミュージアム

国際平和ミュージアムは立命館大学が設立したものである。建物も大きく、200人近く入れる会議場があるし、展示などの催物ができる小集会室も幾つかある。

地下1階は「平和をみつめる部屋」で、15年戦争や第2次大戦後に起きた世界の戦争について展示している。兵士が担いでいた背囊(30kg)の実物が展示され、それが持てるようになっている。戦争中の実物が多く置かれているのがよい。

2階の「平和を求める部屋」現在の世界にある様々な問題や平和な世界をつくるための活動が展示されている。京都の戦跡マップが掲示されている。ピースあいちでも名古屋戦跡マップを作成し、展示することを考えてみる必要がある。さらに、「地球歴史年表」があり、地球の誕生46億年を1年に縮めて表し、原爆の落とさ



れた66年前は1年の終わる0.4秒前であると表示されている。子どもにわかりやすくいい。展示に工夫が見られる。

また、上田の無言館の京都館が併設されている。

(N)

今も残る戦争の傷跡 —知多半島戦跡めぐり—

10月2日、南知多IC-河和海軍水上機基地跡-大井回天特攻基地跡-片名震洋特攻基地跡-中之院軍人像-半田魚太郎(昼食)-雁宿公園-赤レンガ建物(旧カプトビール)-中島飛行機滑走路跡-望州楼防空壕跡-半田IC、戦跡を訪ねるバスツアーで一行27名が一日を楽しみました。

昼前の疲れを払拭したのは中之院軍人慰霊像でした。名古屋の旧陸軍第六連隊による上海上陸作戦で戦死した兵士たちの塑像群で、今にも動き出しそうな様相に圧倒されました。

今回一番の見所は、料亭望州楼の玄関脇から身を屈めて潜り込んだ現存の防空壕でした。懐中電灯を頼りにコンクリート壁を手繰りながらの行き止まりには静まり返った小部屋がありました。

雁宿公園の「殉難学徒の像」は中島飛行機工場に学徒動員され敗戦前年暮れの東南海地震で死亡し



た96人の慰霊碑でした。また「半田戦災犠牲者追悼平和記念碑」には強制連行された朝鮮人徴用青年49人の刻銘もありました。因みに「非核都市宣言」の発祥地は半田市です。(戦争遺跡班)

●豆本型のガイドブック

小学生用の展示の解説書です。タテ15cm、ヨコ10.5cmの豆本型で、広げると表と裏の両面に、「愛知の空襲」「戦時下の国民の暮らし」「学徒動員・学徒出陣」「学童疎開と戦災孤児」「新しい憲法のはなし」など14項目にわたる展示解説。小中学生は無料、大人は100円で頒布しています。



●長崎の被爆楠二世

名東区にお住まいの牧野和子さんから、ベランダで育てていた「ナガサキ被爆楠二世」の若木を「ピースあいち」の敷地に移したいとの申し出を受けた。当館に、その余地はないので名古屋市と相談。「ヒロシマの被爆青桐二世」がある平和公園の「虹の広場」に移植した。被爆二世のセットで平和を守ろうと訴えている。



●河村名古屋市長へ要請

8月23日、野間館長らが市役所を訪れ、河村名古屋市長に面会し、次のことを要請した。

- 1.「戦争に関する資料館調査会」(愛知県/名古屋市)と「ピースあいち」との連携を強化し戦争体験や教訓を次世代へ協働して伝える。
- 2.「ピースあいち」固定資産税等(約130万)の市税減免条例の市長認定による減免。

この要請に対し、市長は減税実施とか、南京大虐殺はなかった、などと自説を述べたのみで、明確に回答しなかった。

●映画上映会(映像による学習会)

毎月第2土曜日の午後4時30分から映像による学習会を開いています。戦争、平和に関わる名作、佳作を選んで上映しています。(参加費無料)

- ◆5月14日「映画 日本国憲法」 参加者12名
- ◆6月11日「ひめゆりの塔」(神山征二郎監督)参加者10名
- ◆7月9日「南山中高生朗読劇・あの夏の空に届け」参加者24名
- ◆8月13日「黒い雨」・田中好子追悼・参加者26名
- ◆9月10日ピースあいち休館日
- ◆10月8日「チャイナシンドローム」(1979年・アメリカ映画)参加者13名

お薦め映画 チャイナシンドローム

映画「チャイナシンドローム」はスリーマイル島の原発事故を予見するように製作された。ジェーン・フォンダ演ずる女性TVキャスター、キンバリー・ウェルズの原発訪問から映画は始まる。見学中に振動が起きた。鳴り響く警報サイレン。発電所に緊張が走る。

入館者が3万人を突破

開館以来の入館者が、8月9日に3万人を突破した。初年度からの入館者を列挙すれば、11,375人、6,744人、5,135人、4,640人。この日はくす玉と記念品(常設展示のCD)を用意して待っていた。3万人目は、椛山中学2年生の2人。館長はじめ大勢のスタッフたちが拍手で迎えた。この模様を「メーテレ」のクルーが取材。くす玉割れからインタビューの様子が、お昼前のニュースで放映されていた。



「ピースあいち」は「博物館相当施設」です。

「ピースあいち」は名古屋市で7番目に愛知県教育委員会から指定された「博物館相当施設」。(博物館法上の博物館である「登録博物館」に準じた法制上の扱いを受けるといふもの。) 平和を愛する多くの市民に開かれた場として、これからも活動していきます。

ドニチエコきっぷの提示で入館料を割り引き

名古屋市交通局の「ドニチエコきっぷ」または「一日乗車券」(当日利用)を提示していただくと、入館料大人300円→250円、小中高生100円→80円に割り引きます。詳しくは名古屋市交通局HPや地下鉄各駅で配布のガイドブック「なごや得ナビ」をご覧ください。

月一回の発行で「ピースあいち」の活動がタイムリーにわかる「ピースあいち・メールマガジン(無料)」。「ピースあいち」のホームページからお申し込みください!

ピースあいちの運営を支えてください。

当館の維持運営は、入館料、会員会費および寄付によって支えられています。会員になって「ピースあいち」を支えていただくようお願いいたします。

入館者は開館以来4年で2万8400人、会員数は開館当初の295名から790名となりました(3月末)。

正会員(年会費6,000円)には年間無料で入館できる無料バスの特典があり、賛助会員(年会費3,000円)には無料入場券を一枚お渡ししております。また団体・法人には「ピースあいち支援団体」(一口1万円)になっていただくことをお願いしております。

また、寄付も受け付けています。入会や寄付のお申し込みは郵便局の振替用紙、または「ピースあいち」で直接お申し込みください。

【ピースあいちの利用案内】

- 開館日 火曜日～土曜日
- 開館時間 午前11時～午後4時
- 休館日 日曜日・月曜日・年末年始
- 閲覧料 大人 300円 小中高生 100円
- 2階の常設展示室のほか、1階には「現代の戦争と平和」というテーマの常設展示、3階には「戦争と動物たち」の展示があります。1階には戦争に関する図書や戦争体験談のDVDライブラリーがあります。1階のみの利用は入館料は無料です。
- 学校や団体の見学で、展示ガイドや体験談を希望される場合は、事前にご相談下さい。
- 駐車場は2台分あります(300円)。他に障がい者用が1台分あります(無料)。

「ピースあいち」への交通のご案内



●編集後記●

ピースあいちが開館4年を超え、活動の輪が益々広がってきた。3階では途切れることなく特別展示が開催され、1階のスペースでは地域の学校などによる朗読や音楽などを含めた多彩なイベントが目白押しに催され、賑わっている。

遠方からの団体の来館者等も増えて、8月には3万人を超えた。数の多さだけでなく、予めメモを持って展示を観ていかれる親子連れの方なども増え、ピースあいちが、平和について考える場になっていることが感じられる。

平和な生活を破壊するのは戦争だけではない。いま世界では、東日本大震災による原発事故の反省から原発の廃止が大きな流れとなった。(H)